



広島市食検だより

2020年10月 第65号

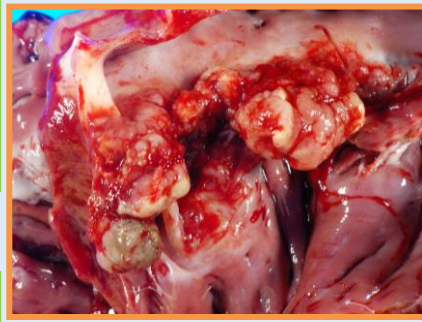
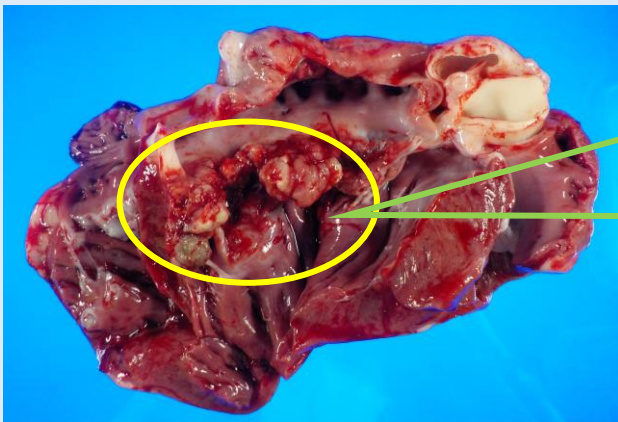


はいっしょう 心臓にイボ？敗血症ってなんだ？？



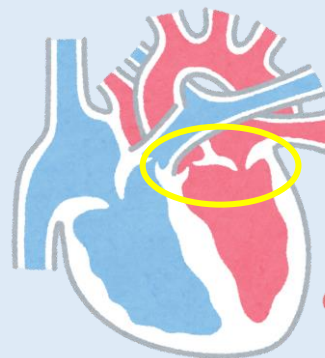
- ★ 敗血症とは、細菌が体内に侵入・増殖したのち、血流によって全身に回るなどして全身に炎症が広がり、重大な臓器障害に陥った状態のことをいいます。
- ★ 敗血症の牛や豚では、皆さんが普段食べているお肉（筋肉・内臓など）の中にも細菌が入り込んでいるため、食用には適していません。
- ★ と畜検査では、主に解体後検査の時に、心臓に「イボ」と呼ばれる構造物（疣状心内膜炎）が発見されることで敗血症を疑って、枝肉の出荷を保留します。その後、各種臓器や筋肉を検査所に持ち帰り精密検査をして、敗血症かどうかを検査します。

↓敗血症の豚の心臓を切り開いたものがこちら↓



←疣状心内膜炎（イボ）は、細菌が心臓の弁に付着し、炎症が起きることで形成されます。

心臓の中に、盛り上がっている部分がある！

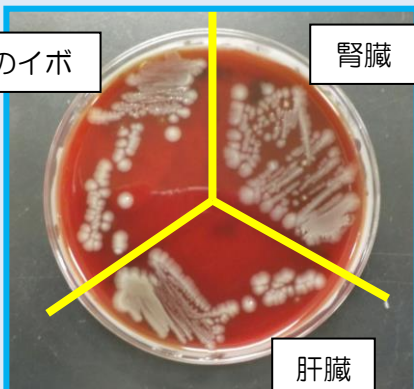


イボがあるのは、イラストだと、このあたり（左心房と左心室の間の弁）です。



心臓のイボ

腎臓



肝臓

精密検査では、臓器や筋肉に細菌が入り込んでいないか検査を行います。
複数の臓器や筋肉から細菌が検出された場合は、**敗血症**と判定されます。内臓やお肉など**全て廃棄処分**となります。



←今回の症例では、心臓のイボ、腎臓、肝臓、そして写真にはありませんが、脾臓からも細菌が検出されました。